

新たな闘いに備えよ!

日刊 動労千葉

1988.2.2

No.2750

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)〇四七二(22)七二〇七

佐倉支部大会かちとる

「四・一」で何ひとつ問題は解決していない、闘いは、一切これからた

一月二十七日、第八回佐倉支部定期大会が開催された。

大会は、山本執行委員の司会ではじめられ、議長には中鉢さんが選出された。

冒頭、支部を代表してあいさつにたった宮内支部長は、「四・一分割・民営化が強行されたが、いったい何か変わったことがあるのか? 清算事業団が初年度から二兆円の借金をしていることから明らかとなり、『赤字』など何も解決していない。整備新幹線計画強行の策動は、利権構造も全く変わっていないことを示している。

また、労働運動は潰れたのか? 全くそうではない。むしろ、矛盾は鉄道労連に集中し、国鉄における労働運動の勝敗を決するのは一切これからである。変わったことといえば、貨物に働く労働者からバスをとりあげたことぐらいである。

当面の最大の課題である『六三・三ダイ改』粉砕の取り組みを軸に、新たな闘いに決起しよう」と訴えた。



(貨物支部の拠点として闘うぞ!)

いまた「六三・三ダイ改」の具体的な内容すら提起しない貨物会社当局

来賓として、本部を代表して、中野委員長より、直面する動労千葉の闘いの課題・方針・情勢について提起を受けたのち、議事に移り、経過報告及び方針提起を田中書記長から、決算及び予算(案)を村田執行委員より提案を受け、質疑・討論に入った。

質疑のなかでは、「この時期になっても『六三・三』の具体的内容が明らかになっていないが、どうなっているのか?」「検修部門の全面的な外注化という話しはどの程度まで進んでいるのか」等の意見が出され、本部・支部より答弁がおこなわれた。

当局に率先協力する鉄道労連日貨労
貨物全国一社の狙いは軍需輸送

最後に、「当局がいまだ『六三・三』の内容も提案しないのは、鉄道労連日貨労が、当局提案を何の議論もなしに、むしろ当局以上に認めてしまおうという状況があつてはじめてなりたつてきていることだ。また、貨物を分割しなかったのは、将来、軍需輸送ということを考えているからだ。貨物の闘いは、今後、より重要になる」との答弁を中野委員長より受け、新たな役員体制を確立、飯高青年部長の音頭で組合歌を合唱し、力強い団結ガンパロー三唱で、大成功のうちに大会を終了した。大会後は、席を移して、支部新年会が開催された。なごやかなうちに、更に団結を固めて、闘いぬく決意を新たにされた。

佐倉支部新役員

- | | |
|---------|---------|
| 支 部 長 | 宮 内 正 志 |
| 副 支 部 長 | 田 中 龍 美 |
| 書 記 長 | 清 水 匠 |
| 執 行 委 員 | 山 本 茂 雄 |
| 執行委員 | 村 田 茂 雄 |
| 執行委員 | 林 田 茂 雄 |
| 会計監査員 | 高 橋 薫 勇 |